

令和5年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第一小学校

経営理念	「児童自らが学びに向かいながら、共に生きること喜びを感じ、誰一人取り残さない学校を創造する」を実現させるために次の3点を柱とし、推進する。 (1) 児童の自ら学びに向かう力を育てる学校 (自立) (2) 児童の健やかな成長のために、共感し、協働する学校 (共生) (3) 児童の思いや願いが実現できる学校 (創造)
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学校運営協議会・会長】 高橋 勉
学校運営協議会 (学校評価分) 第1回 6月 3日 (土)
第2回 12月 5日 (火)
第3回 2月 15日 (木)

経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価			
			目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意見	評価点 (4点満点)
			7月 達成値	12月 達成値	達成度	評価				
確かな学力の向上	学習内容の確実な定着と充実を全児童に対して図る。	誰一人取り残さないで、全員を学びに立ち向かわせる。【学校経営方針3の(6)】	95	88	A	児童の評価は、7月より12月の方が2%、保護者の評価は7%上がっている。学級会を中心に校内研究を進めてきて2年目になるが、学級で自分の意見を伝えようとする意欲がさらに高まり、児童が主体的に参加できるようになったと考えられる。	来年度は2年間継続した学級活動の校内研究をもとに、さらに児童が主体的に活動できることを目指し、市と連携しながらまちづくり学習の研究を深めていく。「誰一人取り残さないで、全員を学びに向かわせる学校」を意識し、「主体的、対話的で深い学び」をさらに目指していく。	保護者からの評価が高く、満足できる結果になっている。誰一人取り残さない学びは難しいが、向かわせることは良い。学校だよりの校長先生の文面からも個々の思いを丁寧に受け取っていることが伺える。授業時間にきちんと座って受けている。20%ぐらゐの児童に継続して支援員を配置すると良い。	4	
		ねらいを明確にし、分かりやすい授業をする。【学校経営方針3の(6)】	95	98	A	授業が分かるという児童の割合、12月には95%に達し、保護者の評価が昨年度の92%に上がっている。ICT機器を活用し、視覚に訴える授業内容を工夫しながら、休み時間や放課後学習教室などでも学習支援を行っている成果もあると捉えられる。	教科書をさらに吟味し、児童がつまづきやすいポイントを把握しながら、児童の実態に合わせた授業展開をするなど、分かる授業をさらに工夫していく。書く分量を減らすなどして児童の思考に合わせて指導改善をし、有効な視覚的な支援を充実させる工夫が必要である。	学校公開参観を通して、教員の説明に対して児童が理解している表情を感じ取れた。放課後残って課題をやる、ぐんぐんタイムで先生が頑張っている。出された宿題は個々に取り組んでいる姿勢が見られる。杉の子・4さくらがとても楽しそう。学校が楽しい場所になっている。	4	
		始業前の朝学習時間や家庭学習等の時間を活用して、読み・書き・計算の反復練習に取り組む。	95	77	B	目標値は95%なので、あと20%ほどアップが必要である。4・6年生で実施している村山漢検では事前に練習を徹底した学級は点数がアップした。やればできる体験をさせるためにも、効率的な反復学習が必要である。90%の達成を目指していく。	家庭と連携し家庭学習の充実を図る。またICTを活用しながら楽しく効率的に反復学習ができるよう指導する。補助教員を通してつまづきがちな児童を支援していく。高学年で地域未来塾に参加した児童は算数の点数がアップしている。協力体制を組んで学習をサポートしていく。	保護者からの評価が高く、満足できる結果になっている。	3.8	
豊かな心の育成	持続可能な社会づくりに向けた意欲と行動を育成する。	【学校経営方針3(1)】	100	80	A	80%以上の高い割合で、休み時間に仲良く遊んでいる児童の割合。鬼ごっこやサッカーを友達と一緒にやることで、体力向上だけでなくコミュニケーションの基本を学ぶ大事な活動があるので、引き続き経営方針の重要な柱として掲げていく。	休み時間児童と一緒に遊ぶ教員も多く、授業以外でも児童と関わることで良い関係を築けている。学級経営の基本でもある。ちょっとしたすれ違いからトラブルになることも多いが、遊びを通して人間関係を学ぶことは、相手意識を育てる観点でも重要であると捉える。	学校訪問時いつも児童と教員が楽しそうに一緒に遊んでいる様子が見られる。学年なども関係なく遊んでいるので仲が良いと感じている。校庭で元気に走り回っている姿がすばらしい。心身ともに健やかだと感じる。外遊びは元気の源で、とても良い。	4	
		持続可能な開発目標(SDGs)17「パートナーシップで目標を達成しよう」を基軸にし、学級活動や児童会活動を通して、共創し行動する力を身に付けさせる。【学校経営方針3(2)】	95	94	A	児童の評価が12月93%と高評価である。音楽集会に向けて音楽の授業でも全クラスで同じ歌を練習し、体育館に響き渡る声で歌うことで、みんなが歌うことが楽しく、自信を持つ児童も増えてきた。5年生の連合音楽会での発表でも評価できる。	年間計画に従って、音楽専科を中心に計画的に指導をすることで、ただ大きい声で歌うのではなく、お互い聞いていて心地良い響きのある声に意識が向いてきている。音楽で他の活動に良い影響を及ぼすよう指導していく。	学校活動として、近隣者やデザイナーに務めている保護者からもとても良いという評判を聞いている。表現する場所をたくさん設けてあり、子供たちは楽しんで参加している。音楽会、展覧会など一生懸命取り組んでいる。歌うことが好きな子供に育っている。歌や音楽は、聴覚、リズム感、協調性の育成など良い影響があるので、良い。	4	
		【学校経営方針3(3)】	95	90	A	85%の高評価である。校内研で2年間話し合い活動の研究を深めてきた成果とも言える。「みんなが楽しめるお楽しみ会の工夫」などの身近なテーマで話せるようになり、その後他の授業でも発表することに抵抗がなくなってきたからであると捉える。	自分の意見を発表できた成果をもとに、一方向ではなく、今度は他者が何を考えているのかを双方向で理解し、どのように折り合いをつけて話し合いを深めていくかが課題となる。	児童の評価に分らないと答えていないので、取組ができていますと評価する。学童クラブでは、話し合いになった間、声の大きさが調整できない、強い言葉を発することがある。	4	
健やかな体の育成	学校2020レガシーを構築する。	運動やスポーツへの興味・関心を高め、体力を高める活動の充実を図る。	95	80	A	評価が70%台と他の項目と比較するとやや低めである。1学期は長縄大会、3学期縄跳び集会和全校で運動する活動を設定し、実践している。ドッジボール大会、サッカー大会など運動が好きな児童は意欲的に参加しているが、苦手な児童へステップでの対応が必要である。	体育委員会主催で、ドッジボール大会を実施し、全員が楽しく参加できる動きを工夫してきた。鬼ごっこが大好きな児童が多いので、苦手な児童も参加できる楽しい活動を、来年度も工夫して設定していく必要がある。	教員が積極的にスポーツに関わり、地域スポーツの運営にも理解がある。運動する環境はとても良いと思われる。教員の積極的な働きで、進んで運動に取り組んでいる。サッカー大会の様子はすばらしい。	4	
	健康的な生活習慣の確立を図る。	「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」の推進をし、健康な体づくりを目指す。	95	88	A	85%を超える高評価である。「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き」は、児童の健康、学力向上にもつながる重要な項目である。朝ごはんを食べてこない児童が減るよう呼びかけ、さらにポイントアップを図っていく。	健康な生活習慣づくりに向け、元気アップ週間を設けて意識が低下しないよう指導をしていく。家庭の協力が不可欠であるので、引き続き生活リズムカードを利用し、意識づけをしながら健康増進を図っていく。	保護者からの評価が高く、満足できる結果になっている。学童クラブの1日保育時、保護者が頑張っって弁当づくりをしており、子供たちも喜んでいる。家庭への啓発を含んでいるので、学校側の手立てを家庭にも把握させるとよい。	4	
信頼される学校づくり	日常の学校生活の中で規範意識を高めながら、より良い生活環境や人間関係を構築する。	特に、5つの生活習慣(校帽、挨拶、靴のかかとを踏まない・揃える、イスを引く、水道の蛇口は下にする)にこだわり、年間を通して、定着を図る。【学校経営方針3(4)】	95	90	A	90%台の高め評価である。朝会での校長講話や美化委員会が靴そろえ調査を毎日行い、全校に啓発している成果である。この生活習慣がなぜあるのか、将来自立していく上で、この習慣がどうつながるのか意識させ、形骸化しないようにしていく。	朝会での講話、道徳の授業など学校生活全体を通して、卒業後人として必要な礼儀を指導している。移動教室など校外に出ても適応できるよう引き続き指導していく。	学校公開時確認したら、しっかりとできていた。生活習慣が身に付いている子は落ち着いて生活しているが、習慣ができていない児童もいるので学童でも意識を持たせていく。決まったことを少しずつ改善して良い方向に進んでいる。	4	
	誰一人取り残さない学校を創る。	児童に対して、受容的な接し方を教員が身に付け、児童の言葉に耳を傾け、褒める・叱るのメリハリのある指導を行う。【学校経営方針3(5)】	100	94	A	90%台の高評価である。児童が困った時に、教員が児童の立場で親身になって話を聞き、本気で指導する姿勢は、「誰一人取り残さない」の学校づくりには不可欠である。モラルを身に付けさせる上で、だめなものはだめと指導するメリハリある指導も継続していく。	児童が悲しむ原因は、「先生が話を聞いてくれない。決めつけてしまう。」ことだという声を聞く。問題行動を指導する厳しさは必要であるが、児童の発達段階に合わせて話を聞き児童に寄り添いながら指導するよう努めている。	学校訪問時など、教員と児童のかかわりが丁寧にされている様子を確認し、良いかかわりができていた。教員が子供に向き合っって丁寧に教えている。教員がやらなければならないことがたくさんある中、良くやっている。	4	
	自分の身を守るために、自分で考え、判断し、行動できる児童を育成する。	安全指導計画を基に避難訓練や交通安全教室、セーフティ教室、ネットのトラブル等の安全教育の工夫を図る。【学校経営方針3(7)】	95	90	A	月1回の避難訓練やセーフティ教室などから、設定された場面(地震、火災、不審者侵入)で自分の身は自分で守ろうとする知識は身に付いてきている成果だと思われる。災害はいつ起こるか分からないので、自分で判断し行動できる児童を育成するために、さらに充実させた指導をしていく。	セーフティ教室で事前指導をしていてもSNSのトラブルも実際増える傾向にある。スマホの扱いはできてルールや危険性などは十分理解できていないため、トラブルにつながる人が多い。家庭で持たせているものではあるが、使い方を間違えるといじめや大きい事件につながるため、保護者の意識も啓発する必要がある。	地域の防災士の方々の協力により行っている。外部講師を呼んだり、安全指導ができています。外部の力を借りて学習していると感じる。自分の身は自分で守る指導は大切である。	4	

【達成度】 = [達成値] / [目標値]

【評価】 A : 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B : 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C : 5割未満→目標の見直し

平均値 3.98